

女性と市長との懇談会 会議録(要約)

日時	平成 25 年 1 月 22 日(火曜日) 10 時 00 分 ~12 時 00 分
場所	健康福祉会館 4階 多目的ホール
出席者	女性 26 人 市長、副市長、企画部長、定住推進部長、定住推進課、少子化対策課、広報広聴課

■市長あいさつの概要

- ・昨年までとは異なりテーマをしぼった中で女性の皆さんと懇談するほうが、市にとって今までと違った観点でのご意見がいただけるのではとの思いから、こういった形で開催。
- ・市政懇談会では、男性女性関係なく参加していただければと思います。
- ・昨年は市制 60 周年、清流国体・清流大会、いろいろな面で非常に多くの市民の皆さんに協力していただき、大変ありがたいことでした。
- ・昨年の今日がちょうど市長選挙の投票日。一年間行政に携わるなかで、市民の目で見ていることとは異なることもあり、表には出てこないが多くの課題があることを実感。根本的な部分から解決していかなければならないことが多くある。
- ・今日は、これからのまちづくりについて「住みやすい」という観点、また若い方が中津川市に暮らしていただきたいという思いから、定住についてご意見を伺いたい
- ・住まいの確保から、仕事の問題、子育て、医療、教育 さまざまな観点がある。限られた時間ですべて聞くことはできないかもしれないので、こういった機会を今後も設けると約束します。

・(出席者紹介)

・(市の移住定住施策の紹介)

■市長から懇談テーマの投げかけ

- ・リニアをどう生かしていくかが、これからのまちづくりの大きなテーマ
- ・外から見たときに再認識する「地元の良さ」もある。外から来てもらうだけを期待するのではなく、住んでいる人の意見を聴かせていただきたい

■懇談内容 司会 広報広聴課

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
Aさん	<p>子育ては終わったが子どもが大学卒業後、地元就職がなく、帰ってこない。学生は地元を離れており就職活動がネックとなる。旅費の支援などがあるといい。</p> <p>就職だけでなく、教育の面でも地元のいい子を外に出さないことが大切。いろんな意見を聴いてどうしたらいいか考えてほしい。</p>	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育関係への取り組みは大切。病院の医師確保も以前は大学医局による人事だったのが、医師本人の意思が尊重される。子育て世代の医師は都会で高いレベルの教育を受けさせたいというので地方へ来たがらないとも聞く。 ・就職がないというが、中津川市は県内でも1、2位を争う求人がある。地元企業も力をつけており人材を求めているが、実際には職種などのマッチングができていない状況。 ・関東地方の企業や大学へ中津川市への進出についてアンケートを実施し、視野に入れてもらう取り組みを始めている。

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
Bさん	子どもの一人が就職先がないので大学院へ進学する。地元には介護施設が足りない。介護施設も、若い人が中津川市から出ていかずに地域で働く場所としていいのではないか。福祉サービスの充実が市外への人口流出を抑えるのでは。	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設の入所待ち人数は、重複した申し込みがあるので正確には出ないが、入所待ちの人がいることは事実。ピーク時の人数、その後の推移を調査し、年次計画に基づいてやっていく ・買い物難民という言葉もあるが、中山間地では近所の小さな商店が必要。小さな商店が仕入れのできる市場の健全経営を促していく必要がある。 ・消費者も大規模店舗ばかりへ行くなど責任があり、反省しなければならない。商工会議所、北商工会としっかり連携していく。
Cさん	子育て中、介護のある人は近くにある商店が大事、働く場所ともなる。		
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・老人介護施設、若い方やめてしまう、保育士も募集に応じない、労働条件の改善も必要。 ・高齢者にとって近くにある商店は大事、引っ越さなくてもいいはず。一方で、空き家になるなら通学する子どものいる家庭が借りて活用する手もあるかも。 		
Eさん	廃業していく店もあるが、親として子どもに好きなことをやらせたい一方で、店を継いでほしいと伝えていくことも大切。続けてほしいと親の気持ちを伝えるべき。	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・若い方のコミュニケーションについては、今度、中京学院大学と協定を結ぶ予定。中津川市のまち自体をキャンパスにし、市が受け入れていくもの。学生の意見も聞いていきたい。中京学院大学だけでなく、市全体で大学生が活動できるようにしていきたい。 ・医師の数ではなく、その診療科の医師が足りるかが問題。診療科は増やしても医師が確保できない。東濃東部の中核病院としての位置づけ、医師の派遣をしていただく中で充実を図ってきたい。
Fさん	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターンでの就職に優遇策をとってほしい。 ・地元でコミュニケーションとって買い物することも親がやっていく。若い人がコミュニケーションとるためのセミナーなどもやってはどうか、婚活にも関係する。 ・市民病院の診療科増設をしてほしい。 		

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
Gさん	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家はたくさんある、田舎暮らししたい人が来てくれるといいが、情報発信ができていない。空き家バンクを充実してほしい。 ・安心して出産できるようにしてほしい。 ・体験して良さをわかってもらえる施設があるといい。 	定住推進部長 市長	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋などで移住相談会 10 数件の相談あるがリタイア後の田舎暮らしを望む人が多い状況。若い方だと思えるような住むところが見つからない。 ・空き家はあっても仏壇が置いてあるので登録して貸したり売ったりはできないなどの理由でバンクに登録いただけられないことも多い。地域の物件があれば、ぜひ紹介してほしい。 ・里山暮らし体験モデルハウスが加子母にあり、年間 35 回 150 人が宿泊（重複あり）。 ・東京、大阪でもチラシ、冊子で中津川市をPRしている ・市内にNPO法人で移住定住の活動しているところがある。空き家バンクには仏壇があるので貸せないというのは多いと聞く。まずは情報をいただき、空き家バンクに登録していただくように進めていきたい。
Hさん	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を発信していくといい。市のHPでも取り上げて地区の行事を掲載してくれる。市へ向けて発信すると市が広げてくれる ・リニアが来的时候に住みやすいまちであってほしい。 	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・予算とは関係のない発信の仕方がある。他のまちでもお金をかけてやっているのではない。知恵を絞っていく ・H25年度予算も「選択と集中」を実行し、メリハリをつけてやっていく。お金が10%減れば、生活を取り巻く課題に使う予算をすべて10%減らせばいいかというと、そうではない。 ・できることは地域で行うなど自助、互助について、皆さんに協力してほしい。
Gさん	<ul style="list-style-type: none"> ・発信しようにも事務所では予算がないといわれる。 		
Iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のとき京都に出たが、子育てには田舎がいいと帰ってきた。日常の買い物は地元でしたい。子どもが保育園に入ったママも働く場所になるのでは。 	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・経済主体で考える人、人としての夢中心の人などいろんな方がいる。多くの意見いただきながら、地元の方が力強く生きていけるようにしていきたい。意に添えないこともあるかと思うが、中津川市を愛してほしい。 ・小水力発電などの取り組みもある。早急には実現できないが、取り組んでいる。

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
Jさん	<ul style="list-style-type: none">・16年前に東京から坂下に移住。移住のポイントは自然の豊かな、景色の美しさと、人間関係。人間関係は都会田舎関係ないが、UIターン住宅に住む人はこれからの人間関係に不安を持っていると聞く。・光熱水費を抑えられるように安全な発電ができるといい。・リニアが来るが、山をぶち抜いてしまうのは胸が痛い。人間だけでなく、みんなで生きているという気持ちを持ちたい。	(市長)	(同上)
Kさん	<ul style="list-style-type: none">・高齢化で、連れ合いがなくなると買い物の足もなくなる。UIターン住宅入居者を快く迎える準備をしている。若い人に帰ってきてほしい。市も応援してほしい。・水道のない地区に住んでいるので、地元に戻ってきてくれる子どもを思うと胸が痛い。・馬籠が合併で中津川市になった。観光収入で税収も多いのであれば地域に還元してほしい。	企画部長 市長	<ul style="list-style-type: none">・水道については、現在、水道が未普及の川上(かおれ)地区で簡易水道を整備しており、次は神坂地区を予定、安心してほしい・税収については、税収の多い地区に多く予算をとという考えはない・東山道は中津川市を語っていくうえで重要なポイントになっていく。大事にしていきたい、馬籠、神坂を一体として、都会から足を運んでいただく。いにしえを思いながら、と考えている
Lさん	<ul style="list-style-type: none">・4年前に移住してきた。自然豊かな田舎をもとめて都会から来る人は増える。豊かな自然を残してほしい。	市長	<ul style="list-style-type: none">・市は工業だけでなく、農林商工すべてそろったバランスのいいまち。耕地面積も県で2番目、山の多い地域では誇れること。林業も城の修復に木材を出していたり、商業は街道のもてなしから栄えてきたまち。時代の変遷とともに工業のまちとしても発展してきた。農林業も各ビジョンつくって進めているところ。

発言者	発言要旨	対応者	対応(回答)の内容
Iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアは電磁波の影響等考えると歓迎できない。正確な情報を伝えてほしい。 ・安心して子どもを産める場所がほしい、助産院を増やしてはどうか ・田舎暮らしをしたい人は空き家より空地(自分で建てたい)土地のバンクも考えてほしい ・収入が減ってもいいので田舎で暮らしたい人も多いのでそういう仕事の紹介も必要 	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・山は木さえ生えていればいいわけではなく、人の手がはいらなければ荒れてしまう、50年100年先を考えて計画的に整備が必要。 ・それぞれの人生観が違うなか、それぞれを最大限尊重し、その中で中津川市を愛して暮らしていただけるようにしたい。様々なものが混在できるまちにしたい。

(司会)

- ・まだまだ意見があると思いますが、時間となりました。
- ・市長から総括をお願いします

■市長総括の概要

- ・限られた時間の中で、まだまだ話したいことがある、テーマをもっと絞って話したいこともあるかと思うので、またこうした機会を考えていきたいと思う。
- ・親の関わり方、子どもとのコミュニケーションが大切という点が心に残った。「中津川はいいところですよ」という以前に、親のいる田舎に帰ろうと思う子どもを育てることが大切。
- ・働く場所であり、医療であり、商業の問題であり、生活の利便性、いろんな意見をいただいた。市の側としても説明しきれなかったところもあり、また行政としてはもう少し踏み込んだところもやっているがそこまで話せなかった。出前講座も一つの方法なので、わからないところは、どんどん質問していただければ、市の職員もやりがいがある。
- ・皆さんの意見を市政に反映していきたい

- ・(全員で記念撮影、閉会)